

兄弟姉妹の皆様

私たちのローマのパパ様・フランシスコ教皇様は今回のシノドスにおいて、「第2バチカン公会議を見直し、立ち戻り、生かしてほしい」とメッセージをくださいました。

2022年待降節から、ミサの式次第が新しくなりました。これも、その新しい流れの一つです。

今回はサンパウロ発行「第2バチカン公会議 公文書全集 南山大学監修」『第2章 聖体の聖なる秘儀』を解説します。

私たちも、ミサや祈りに主体的に関われるように、一緒に学びましょう。

尚、わかりやすい表現を用いるため、多くの資料を参考にさせていただいておりますことをはじめにお伝えしておきます。

主任司祭 ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.

第2章 聖体の聖なる秘儀

典礼憲章

⑨

～第二バチカン公会議公文書より～

わたしたちの救い主イエス様は渡される夜、最後の晩さんにおいて、御からだと御血による聖体の犠牲を制定されました。それは、イエス様が再び来られる日まで、十字架の犠牲を世々に永続させ、イエス様の愛する花嫁である教会に、ご自分の「死」と「復活」の記念を託すためでした。そして、それらはわたしたち教会に「いつくしみの秘跡」「一致のしるし」「愛の絆」「過越の宴～イエス様のご聖体としてわたしたちに食され、わたしたちの心はめぐみに満たされ、未来の栄光がわたしたちに与えられるご復活の祝宴」として託されました。

参照：ルカ福音書 第一章 46－55【マリアの賛歌】

(つづく)